

Vol.21
2014 AUTUMN

J
S
U
N
A
G
E

[繋ぐ]

創立90周年記念特集号



KPP
ものしり
事典

KPPをより深く
知っていただくための90のこと

90 things to know more deeply the "KPP".



創立90周年記念 特集号

TSUNAGU 2014 SPECIAL ISSUE

KPPをより深く
知っていただくための90のこと
KPPものしり事典

■ あゆみ P02

90年の歴史に
埋もれていた事実を発掘

■ ぶんか P05

快活な社風を育む、
多様なKPPカルチャー

■ ざつがく① P10

知る人ぞ知る、
「KPP的」マメ知識

■ おもい P11

企業活動の根底にある
願いとポリシー

■ ひと P13

全国から選りすぐった
個性派が集結

■ ざつがく② P16

知る人ぞ知る、
「KPP的」マメ知識

■ もの P17

KPPおすすめの
商品やサービス

■ みらい P18

創立90周年に寄せて

深 国 知 際

KPPをより深く 知っていただくための90のこと KPPものしり事典

1924(大正13年)の創立から、

今年で90周年を迎えた国際紙パルプ商事。

この長きにわたる歩みを支えてくださったみなさまに感謝しつつ、

これまで以上に当社を深く知っていただきたい。

そんな思いを込めて、今号のTSUNAGUでは特別な企画をご用意しました。

昔懐かしい歴史上の出来事から、思わずクスッと笑ってしまう小さな話題まで、

当社にまつわる90個のトピックスを鋭意厳選。

長くお付き合いいただいているお客さまや仕入先さまさえも知らなかった、

意外な二面が見つかること請け合いです。

題字：倉佐奈恵さん(大阪支店 直需営業部 直需第1課) ※P13
61 参照
和紙製作：ロギルアウテンボ(ガルト)さん(手漉き和紙作家) ※P08
30 参照

あゆみ

90年の歴史に埋もれていた
事実を発掘

90年の歴史を経て 紙の総合商社へと成長

01
KPP



草創期 (1924~1931)

国際紙パルプ商事の前身である大同洋紙店は、大正13年に大阪を本社として誕生しました。当時から中国をはじめアジア諸国にも積極的に進出、紙流通のリーディングカンパニーとしての土台を築き上げました。

成長期 (1968~1988)

昭和43(1968)年、本社を大阪から東京に移転。昭和48年に王子連合通商と合併し、社名を「大永紙通商」と改めます。この合併により、伝統的な強みであった貿易機能がさらに強化、拡大されました。昭和49年に旧明石町倉庫があった場所に本社ビルを建設、昭和63年には今なお主要な物流拠点のひとつである「新木場物流センター」が竣工しました。

躍動期 (1999~)

平成11(1999)年、紙流通業界再編の先駆けとして日亜と合併し、社名が現社名の国際紙パルプ商事になりました。平成15年に現本社ビルが竣工。平成18年にはラオス植林事業に投資をはじめ、紙の販売と古紙回収に植林事業を加え、本格的な資源循環型のビジネスモデルを構築するとともに、同年に服部紙商事と、翌平成19年には柏井紙業と合併。

さらに幅広い商品を取り扱う紙の総合商社へ変貌を遂げていきます。平成25年には住商紙パルプと合併を行い、古紙パルプ段階フルフルム・ゼロファンなどこれまで取り扱っていた分野の強化にも成功。このような歴史を経て、国際紙パルプ商事は事業分野を拡大、より一層国際社会に貢献できる企業体制を構築してきました。



大同洋紙店創立時のパーティ風景



昭和天皇即位礼の記念写真(昭和3年、九州支店)



銀座一丁目にあった大同洋紙店旧本社ビル



大永紙通商旧本社ビル



国際紙パルプ商事発足



現本社ビル

〓 文明開化のシンボル〓、明石町。 坂本龍馬も歩いていったかも？

東京本社がある中央区明石町一帯は、江戸時代には、締結された修好条約に基づき設置された「外国人居留地」だったこと、ご存知ですか？明治元年にアメリカをはじめ、イギリス、ポルトガル、オランダなど計9カ国の領事館が設置されたのを皮切りに、キリスト教の教会やミッションスクールなどがこの地に置かれ

ました。慶応義塾をはじめ、青山学院や女子学院立教、明治学院、女子聖学院などの発祥の地であり、当時は「学校のまち」としてもつとに有名でした。また、当時築地には土佐藩邸もあり、幕末の志士たちが数多く出入りしていたとか。かの坂本龍馬も、本社の辺りを歩いていったかもしれませんね。



東京府築地鉄砲洲居留地中絵図(ミズノプリンティングミュージアム蔵)明治初期の築地居留地の中絵図

聖路加国際大学敷地内にあるトイストラ記念館1998年に移築復元された



本社前にある女子聖学院発祥の地の石碑



02
TOKYO

本社ビルが建つ地で 産声を上げた社員がいる。

東京本社が現在の地に新築移転したのは、2003年のこと。隣接地（現在は時間貸し駐車場）からスライドするかたちで新社屋を竣工しました。新社屋の場所にはかつて都立築地産院という産科病院がありました。同産院は新生児医療の先駆的存在でしたが、1999年に別の都立病院に統合されるかたちで廃院となりました。人事部厚生課の駒谷哲男さんは、同産院で産声を上げたうちのひとり。「そのことを知ったのは、採用決定後のこと。母から、あなたは築地産院で産まれたのよ、と聞きました。その後、本社ビルが完成し自分が産まれた場所でも働くことになったことは、まさに運命かもしれません」と駒谷さん。まさに、生まれる育ちもKPP、というわけです。



厚生課員として、社員の健康管理にも携わる駒谷さん。ここにも運命の不思議を感じる

07
TOKYO



駒谷さんの母子手帳
出生場所の欄には「東京都中央区明石町6番24号」と印字されている

ニュースター紙パルプ商事
サラリーナル紙パルプ商事
国際紙パルプ商事
採用
ビックバン紙パルプ商事

紙屋ならではのノスタルジー漂う 社名入り厚司織り、発見。

昭和初期、草創期の社員が重い紙を担ぐ際に着衣の上に着ていたという、頑丈な厚司織りを発見。屋号と社名が染められたオリジナルの法被から、身につけた筋骨隆々の社員が紙を背負って街を闊歩する姿が連想されます。戦後は藍染めの前掛けもつくられ、社員に配られていたそうです。

厚司織り・オヒヨウなど木の内皮の繊維を織ったアイヌの織物がルーツ。丈夫なため職人、漁師などの労働者に使われた。参考『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』



貴重な厚司織りを提供してくれたのは新システム準備室の山崎洋司さん

04
KPP



当時の洋風建築を象徴する螺旋階段



応接室はモダンな空気感 大円柱で開放感あるロビー

大阪支店のすぐそば。 いまでも現役の「太閤下水」。

09
OSAKA

400年以上も昔、大阪の町は太閤秀吉の都市計画でつくられました。なかでも秀吉が力を入れたのが、下水道の整備。街区の北半分は建物が入り口を北に向け、南半分の建物はその逆とし、それぞれの建物の背中(裏側)にあたる部分に東西へと走る下水道を掘削したのです。建物の背中央を割る部分を開削したことから「背割下水」とも呼ばれた下水道、「太閤下水」は世界的に見ても画期的な水路として歴史を重ねながら、現在この水路に沿って下水道が整備されています。



大阪支店から徒歩1分の太閤下水
いまでも約40kmが現役の地下水路として息づく

もしかしたら、 こんな社名になっていた!?

03
KPP

現社名の「国際紙パルプ商事」は、社名公募によりあがった候補のなかから選ばれたもの。伝統的な強みであるグローバルイズムを標榜する会社として、日本国内にとどまらない成長や規模拡大をその名に込めた社名です。しかし、当時募った社名案をのぞいてみると、世界観の大きさを感ぜさせる名前がいろいろ。ですが、やっぱり現社名がしっくりきますね。

05
KPP

ファイトバクハツ。 しのぎを削る、運動会。

かつては運動会、縄跳び大会、綱引き大会、ドッジボール大会などが各支店で開催されていました。みんな平静を装っていても、いざはじまると本気モードに。復活させると面白いかも?



06
KPP

ダンスパーティーで 社内交流。

本社や大阪、名古屋で開催されていたというアットホームなダンスパーティ。食堂などを会場に、生ギター演奏や、ディスコ世代には懐かしい「チークタイム」もあったとか。

08
OSAKA

大同洋紙店時代、 大阪本社の瀟洒な建築。

1954年竣工の大同洋紙店の本社屋は、荘厳な洋館。瀟洒な建築で有名だったそう。ロビーは高い天井の吹き抜けで、大きな円柱が4本屹立し、西側には洋風建築ならではの螺旋階段。さらに、和室の客間やお風呂まであったのだとか。当時は近隣に大きな建物がなく、ランドマークとして親しまれていました。

10
TOKYO

東京を疾走する 自転車営業部隊。

戦後間もない昭和20年代。交通網は整備されておらず、隅田川にはまだ佃大橋がなく、明石町から月島の間に渡し船が運航されていた時代。当時の外回りの営業マンには、1台ずつ自転車が貸与されていたそうです。渡し船に自転車を積み東奔西走、営業活動に励んでいたとか。東京OB会の会報「ゆうゆう」の記載によると、その様子から、近隣では「明石町銀輪部隊」と呼ばれるほど有名だった、ということです。



KPP CULTURE

環境に関する
幅広い知識を備えた“エコピープル”が増加中。

環境に配慮した経営・企業活動を推進しているKPP。その一環として2011年から取り組んでいるのが、「eco people 50 plan」というプロジェクトです。これは、「環境社会検定試験（通称：eco検定）」受検を全社的に推進するもので、この検定合格に向けた学習を通じて、社員の環境に関する知識・意識の向上をめざすというもの。「2016年までに社員の50%がeco検定合格者に」を合言葉に、毎年多くの社員が検定試験に挑戦し、2014年9月までに149人が合格を果たしています。合格者が2人以上いる団体はエコユニットとして登録でき、当社は「紙ing-ecom」というユニット名で登録しています。環境に対する意識は、社員一人ひとりの心のなかに着実に育っています。



イントラネットに模擬問題を掲載するなど、全社的なバックアップも実施



11
KPP

12
OSAKA



毎月の出勤初日に行われる参拝当日は、雨が降らないという都市伝説も!

毎月初日に参拝を行う
大阪支店社屋の稲荷神社。

願い事を通すと云われる朱色の鳥居に、大神様の使いとされる白狐。この稲荷神社は大阪支店の社屋屋上に祀られているもので、前身である大同洋紙店創立当初から社屋の新築移転を経て変わらず、大阪支店に祀られています。現在は毎月の出勤初日、決まった時間に同支店の部長以上がそろって参拝を行うほか、例年5月吉日には坐摩神社から宮司さまをお迎えして玉串奉納を行っています。商売の相手先さまとの良縁をいただきたいとの願いを込めて鳴らされる大きな拍手。大阪支店で90年間続く伝統は、これからも変わらず継承されていきます。

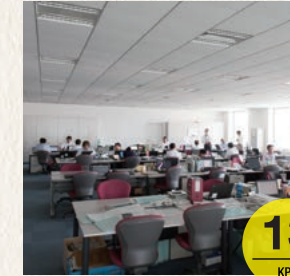
14
TOKYO



社員とその家族の絆を深める
東京本社恒例の冬のイベント。

東京本社の冬の恒例行事といえば、群馬県丸沼高原へのスキー旅行です。このツアーは社員の家族・友人であれば誰でも参加可能。餅つき、ビンゴ大会といった家族で楽しめる企画も催されるので、日ごろの感謝を込めた家族サービスとして参加する社員も多くいます。今年3月に実施されたスキー旅行には、総勢43名が参加。ここにも社員、そしてその家族を大切にするKPPの文化が息づいています。

13
KPP



天気の良い日は
隅田川沿いを散策しています

東京本社 経営企画本部
経営企画部 CSR・広報課
松田 浩さん

12時になるとスイッチOFF。
昼休みに照明を落とす理由とは？
薄暗く、どこか物静かなランチタイム。昼休みに一斉消灯するこのルールが徹底されるようになったのは、2011年3月のこと。東日本大震災を機にはじまった節電のためのアクションは、3年が経過した今でも毎日続けられています。KPPでは社会の要請に応えるため、電力消費削減に向けた取り組みを継続しています。

商売繁盛の願いをかけた、
赤と黄色の2体のだるま。

東京本社に置かれた赤いだるまは、少林山達磨寺(群馬県)で祈禱法要を受けたもの。年の始めには、商売繁盛、社運隆盛の願いをかけて社長自らが片目に墨を入れ、祈願が成就した納会時に、もう一方に目を入れています。黄色のだるまは、KPPがECサイトの運用業務を担当するサンエックス社製のもので、新事業営業本部に置かれています。



15
TOKYO

だるまのお腹にはサンエックス社のキャラクター「リラックマ」が

16
NAGOYA



今年2月の開設以降、
業界関係者の間でも話題に

新しいネタが集められた、
名古屋支店の展示スペース。

名古屋支店では、自社のネットワークを生かして開発・発掘した商材を社内フロアの一角に集積。社内外に向けて情報を発信する、常設展示スペースを開設しています。そこに展示されているのは、折りたたみ式の仮設トイレから、中芯を加工し低コストを実現したパネル什器まで、実に多彩。メーカー、卸商の方々とKPP社員の交流の場としても、定着しつつあります。

KPP CULTURE

40年間継続されている、
年に1度の納涼イベント。

約40年続いている夏の恒例行事「ビアパーティ」。7月下旬、身体に溜まった夏の熱気と疲れを払おうと、本社に勤務する社員の大半が参加。会場となる1階駐車場には焼き鳥や茶そば、ソフトクリームなどの屋台が立ち並び、社長による乾杯を合図に一同は大いに盛り上がり。よく冷えた生ビールと絶品料理を味わい、心身ともにリフレッシュ。隅田川の涼風舞うなか、同僚たちとの楽しい会話は尽きることがありません。

17
TOKYO



参加者は入社5年目まで。
新入社員の歓迎イベント。

18
TOKYO



新入社員が入社して約1カ月が過ぎた5月。新入社員の連帯意識と若手社員同士の親睦を深めることを目的に催されるのが、通称「5年会」と呼ばれる歓迎会です。これに参加できるのは入社5年目までの若手社員のみ。2年目の社員が幹事を務め、新入社員の自己紹介、ビンゴ大会などで大いに盛り上がりま

19
KPP

豊かな社会を実現するために、
さまざまな社会貢献活動を推進。

一企業市民として地域社会と共生し、より良い社会形成に貢献するために、KPPではさまざまなCSR活動を推進しています。そのひとつが「エコキャップ活動」。ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを贈るNPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同し、全社で回収を実施。4年間の累計で466,094個のキャップ(483人分のワクチンに相当/2014年6月現在)を寄贈しました。また、環境負荷軽減も重要な課題として位置づけ、王子ホールディングス(株)がラオス人民民主共和国で展開する海外植林事業に2006年から参画。製紙原料となる木材の確保と地球温暖化防止に寄与することで、紙の総合商社として資源循環型社会の実現をめざしています。そのほかにも一般社団法人環境アスリート協会が主催する「アスリートと学ぶ環境教室」に協賛企業として参加し、運営・サポートに携わることで、子どもたちへの環境教育にも努めています。



エコキャップ活動
途上国の子どもたちへのワクチン代としてだけでなく、焼却によるCO2削減にも貢献



環境教室
アスリートによる実技指導や気象予報士による講演会も実施



海外植林事業
古紙の回収と併せて植林事業を行うことで、資源循環型ビジネスモデルを構築

仕事始めは晴れ着で入社。
古き良き時代を写した1枚。

20
OSAKA



大阪支店管理部長佐伯恵子さん
(写真右から3番目)所蔵

山笠の昇き手が育む地域とのつながり。

毎年7月、博多の街を勇ましい熱気で包み込む「博多祇園山笠」。営業第2課の星野勉さんは、昇き手(担ぎ手)のひとりとして、この山笠に15年以上参加しています。男衆は、年間を通して会合を重ねることでチームの結束を固めていきます。そこで地域の方々とも深く交流できることも、山笠の大きな魅力だとか。これも、地域に根ざした活動を大切にするKPPの文化の表れです。



22
KYUSHU

星野さんは、赤手拭(あかてのこい)という役職の筆頭として、チームの運営に参加

21
KPP



日本語検定公式キャラクター「にほんごん」

正しい日本語を身に付け、
ビジネスに生かす。

KPPではこれまで、日本語運用能力向上を目的に、日本語検定試験の受検を推進してきました。敬語、文法、語彙、漢字など、日本語を正しく使い、会話、文章などを通して正確に意見や思いを伝えることで、コミュニケーション能力向上にも奏功しています。これまでに332名が受検し、218名が認定、63名が準認定の成績を残しています。

社内の部活動を推奨し、社員の健康増進と生活文化向上を支援



高知在住の作家・ロギール氏によって漉かれた和紙



社名入りユニフォーム姿のランナーが東京、大阪、名古屋の街を疾走。

KPPにはたくさんの“社員ランナー”が在籍しています。東京と名古屋にはマラソン部、大阪には駅伝部があり、日々の練習、大会での自己ベスト更新に挑戦しています。

名古屋支店
 管理部 総務・経理課
 伊集院 琢磨 さん

名古屋支店が誇る快速ランナー。昨年来、月間300kmを目標にトレーニングを積み、2014年の長野マラソンでは、3:03:27の自己ベストを記録。野口みずきさんの「走った距離は裏切らない」を実感!? 市民ランナーの憧れ、3時間切りをめざす。

社名、ロゴ、エコモがプリントされたKPPのユニフォーム



33 NAGOYA

名古屋支店マラソン部
 部員10名。部員だけでなく、その家族も大会にエントリー。アスリート系だけでなく、FunRun系も所属するアットホームな部として、それぞれの目標に挑戦しています。



32 OSAKA

大阪支店駅伝部
 部員14名。2000年に発足し、毎年1月実業団駅伝大会に出場。フルマラソンに挑戦する部員も多く、2011年の大阪マラソンでは全員完走を果たすなど、活躍の場を広げています。



31 TOKYO

東京本社マラソン部
 部員16名。4年連続で新入社員が入部するなど比較的若手が多い。普段は、各自が地方大会などで研鑽を積み、毎年10月の軽井沢マラソン(ハーフ)には、部の合宿を兼ねて参加。

30 TOKYO

野菜、フルーツ、和紙の原料を本社屋上で栽培。

ナス、タマネギ、シシトウ、サツマイモ、枝豆、芽キャベツ、イチゴなど。これらはすべて東京本社の屋上庭園で収穫される野菜です。2010年に創設された園芸部(17名)によつて栽培され、収穫量が多いときには社員食堂のメニューとして使われることも。春には希望者を募り、イチゴ狩りも行われています。また屋上庭園には、コウソウとミツマタも栽培されており、それらを原料とした手漉き和紙も完成しました。



29 TOKYO

大同洋紙店時代から続く最古の部活動が華道部です。詳細は不明ですが、戦後もない時代には存立し、大同、大永、国際と社名が変わっても、活動を続けてきました。現在の草月流・前田早苗師範は二代目、お母さまの代から社員に生け花の稽古をつけてくださっています。13名の部員の作品は、お客さまをお迎えする1階エントランスホールなど、東京本社各所に装飾。社内に彩りと季節感を与えています。



部員の作品は、東京本社で隔年開催される文化展や社外の展覧会にも出展稽古だけでなく、作品を見てもらう楽しみが上達につながっているとか

お取引先さまとのつながりを深める、さまざまな交流イベントを実施

仙台風 vs 山形風。仙台営業部の秋の風物詩「芋煮会」とは?

北日本支店仙台営業部が主催する、年に1度の季節行事といえは「芋煮会」。秋風立つ10月、名取川の河原に、KPP社員、地元製紙メーカーの方々が集い、「芋煮」を楽しみます。この「芋煮」とは、肉、里芋、ネギ、こんにやくなど煮込んだ鍋料理のこと。味のベースは仙台風(仙台味噌ベース)と山形風(醤油ベース)の2種類。仙台営業部ではフレンチシェフの経歴を持つ草刈康さん(営業第1課)の指揮のもと、両方の鍋をつくるのが通例です。豊かな自然と開放的な空気なか、絶品の芋煮とアルコールを心ゆくまで楽しみ、明日への活力を蓄えます。



24 SENDAI



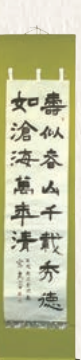
26 TOKYO

輸入紙の倉庫を見学
 出版社の受注センターにて改装などを体験

さらなる知識の充実を図るために 実地研修会&勉強会を実施。

紙と周辺領域に関する知識習得・向上を目的に、業務本部主導で実施されている「研修会プロジェクト」。製紙工場や物流倉庫をはじめ、印刷、断裁、加工といった関係各社の現場を訪れ、スタッフの方々とコミュニケーションを図りながら実際に見学・体感することで、紙に関する知見を広げています。2014年は見学だけでなく、専門分野にテーマを絞った勉強会も開催予定。自らの発展をめざした研鑽は、絶えることがありません。

28 KPP



傑作、力作がそろ「作品展」を開催。

社員の文化活動の振興と関係各社との交流を目的に、社員が創作した作品を展示する「文化展」を隔年で開催しています。昨年催された第9回文化展では、絵画、書道、写真、手工芸、生花など計105もの作品を出展。たくさんの方々にご来場いただき、予想を上回る盛況となりました。



23 KYUSHU

8月の第2金曜日。容赦なく照りつける真夏の太陽以上に、九州支店社員の心を熱くするイベントが、毎年恒例のボウリング大会です。会場となる市内のボウリング場には、通常業務を終えたKPP社員をはじめ、福岡市内を中心とする卸商、在福メーカー15社、物流業者2社から総勢100名以上が集結し、個人、団体別に優勝の名誉をかけた熱戦が繰り広げられます。このイベントが行われるのも、今年で6回目。普段の仕事から離れた、日ごろお世話になっているお取引先の方々とともに汗を流し、新たな一面を知ること、また二歩心の距離が近くなっています。

各地の特産品が集結。大阪支店伝統の「枝豆パーティ」。

大阪支店の大会議室に大量の枝豆が並ぶ、夏の恒例イベントが「枝豆パーティ」です。社員間の交流を深めると同時に、暑気払いをかねて2000年から行われているもので、新潟県の新潟茶豆や地酒(製紙メーカーよりご提供)をはじめ、京つけもの(KPP京都支店)、辛子明太子(同九州支店)などの逸品がずらりと並びます。製紙メーカーの方々を含め、例年約100名が参加する盛大なイベントは、食いだおれの街・大阪ならではの“食”の祭典でもあります。

25 OSAKA



大阪支店の1年を締めくくる、KPP最大規模の大宴会。

数ある年間行事のなかでも、その盛大さとユーモアで他を圧倒するものが、大阪支店の忘年会。Yシャツにはち巻き姿の、押忍隊によるエール交換、新入社員によるユーモアたっぷりのパフォーマンスや製紙メーカー社員の方をメンバーに迎えての軽音部ライブ演奏など、実に多彩。この日のために練習を重ねた出し物の数に、会場は終始沸きかえります。大阪支店の1年は、これがないと終われません!



27 OSAKA

**備えあれば憂いなし
災害対策は救助用ゴムボートまで**

会社では災害時に備えてさまざまな物資を整備・備蓄していますが、そのなかには非常救助用のゴムボートも用意されています。本社2Fに常備されているので、もし隅田川が氾濫し、けが人が出ても近隣の病院に運ぶことができます。ちなみに、食糧などは各支店でも備蓄しているのでご安心を。



ゴムボート「EZ6-942」はアキレス(株)製

45
TOKYO

**KPPの社用車には
社名にちなんだ
ナンバーが付けられている**

本社および支店で使っている社用車。そのナンバーの多くは社名にちなんで「5931(コクサイ)」になっていること、ご存知ですか？これは、単なる語呂合わせにあらず。空港や駅などに迎えに出た際、似たような車が並ぶことも多いので、識別しやすいという狙いもあるそうです。ちなみに、社長の車は100周年を見据えた長期経営計画からとった「2024」。



44
KPP

**KPPオリジナルのどら焼きが
手に入る和菓子の名店がある**

東京では、KPPオリジナルのどら焼きが手に入ります。当社OBのご親戚が経営する、創業130年の老舗、日本橋・日月堂がそのお店。和菓子界の三ツ星シェフの証「選・和菓子職」を持つ職人さんの手づくりで、北海道産小豆の自家製餡。美味です。地方発送もできるので、ぜひ一度お試しを。

選・和菓子職を持つ職人は
全国でわずか100人程度

選 和菓子職

KPPロゴの焼き印が
施されたオリジナル
どら焼き ※要予約



48
TOKYO

日本橋 日月堂【www.nitigetudou.com/】
東京都中央区日本橋小舟町12-14

**社員食堂のある中庭には
ときどきネコが迷いこむ**

51
TOKYO



本社地下の社員食堂。窓外の緑に癒されながら食事をしていると、塀から足を踏み外したネコが落下して下ることが、なかなか珍しいこの光景、運良く見れた日はハッピーかも！



**東京本社のすぐ近くに
駅ができる予定だった？**

52
TOKYO

1980(昭和55)年に開業した、地下鉄・有楽町線。当時の計画では「明石町駅」として現本社のすぐ近くに設置される予定があったそうです。結局、近隣住民の要望もあり現在の東京メトロ・新富町駅となりましたが、計画どおりに進んでいたら、もっと便利になっていたかも知れませんね。

**今ではめずらしい
日めくりカレンダー**

47
KPP

最近では貴重になった日めくりカレンダーは、お得意先をはじめ、近隣の方にもご好評をいただいています。



知る人ぞ知る「KPP的」マメ知識



ZA-TSU-GA-KU

1

知って驚き、聞いてナットク。

仕事にも役立つ(かも)知れない)、
KPPにとっておきのマメ知識をご紹介します。

**50 名古屋で発見!
「おかしな」引き出し**

名古屋には、知る人ぞ知る「おかしな」引き出しが。いつもチョコやスナックでいっぱい、外回りで疲れて帰ってくる営業マンの小腹とココロを満たしてくれています。



**指で「パチン」とはじくだけで
紙の種類や厚さがわかるスゴ技**

営業には「紙を触って指でパチンとはじくだけで用紙の種類がわかる」というスゴ技を持つ社員がいます。手触りで厚みを、紙を鳴らしてコシを確かめてメーカーや種類を特定できるようになるそうです。紙を触ると反射的に鳴らしてしまうらしく、本屋さんでパチパチ鳴らしてしまう人も。もし見かけたら、それは当社の社員かも？



49
KPP

KPP CULTURE

KPP社員が自信を持っておすすめする名店&グルメ

36
TOKYO



鳥福

東京都中央区湊3-13-5 Tel.03-3297-4048

大振りの焼き鳥はもちろん、お刺身も絶品という社員御用達の焼き鳥屋さん。チキンカツ、とんかつ、豚キムチやしょうが焼きなどランチタイムの定食も650円とリーズナブル。



オリミネベーカリーズ

東京都中央区築地7-10-11
http://oriminebakers.com/



35
TOKYO

毎朝粉から手づくりし生地にも改良剤や乳化剤などを一切使わない、こだわりのパン屋さん。宅配もあり、社内のパン好きで定期購入するファン多数。おすすめはバゲットとチーズフランス。築地にある包装材の老舗が手がけたお店だけに、パッケージもステキです。

塩瀬総本家 本店

東京都中央区明石町7-14 Tel.03-3541-0776(代表)

京都建仁寺の禅師が入宋の際に師弟の契りを結んだ縁で貞和5(1349)年に中国より来日した始祖・林浄因が、日本で初めて餡入りの饅頭をつくり後村上天皇に献上したことから「日本の饅頭の元祖」と言われる。足利氏や豊臣氏、徳川氏など、時の将軍たちの寵愛を受け、明治初年より宮内省御用達となるなど輝かしい歴史を持つ老舗。仕事先への手みやげなど、社員が足繁く通う和菓子屋さん。



看板商品の著預饅頭「志ほせ饅頭」
厳選した十勝音更町の小豆で餡を炊き、契約農家から仕入れた大和芋を用いた皮づくりまですべて職人の手による「匠の菓子」



「ハローキティ饅頭」
もおすすめ
最近の人気は公式ライセンスの「ハローキティ饅頭」。こちらも著預饅頭で、紅白あり

34
TOKYO



北京食堂

東京都中央区湊3-9-3
Tel.03-3553-3935

安くて美味しい中華料理店。最安の麻婆豆腐ランチは、何と500円。夜もおつまみ1品とビールのセットで500円という破格の安さ。

38
TOKYO



湊上むら

東京都中央区湊3-15-9
Tel.03-3551-2430

東京本社近くで日本蕎麦、ならこのお店。ランチセットはミニ蕎麦付きでプラスαのおトク感。2階はお座敷で夜は宴会もOK。

37
TOKYO

つかさ

大阪府大阪市中央区安土町1-6-11
Tel.06-6263-0975

大阪支店の「公式居酒屋」と言っても過言ではない隠れた名店。場所は目と鼻の先、ゆくり歩いて30秒。300円台から揃うお料理は、どれも値段以上に美味しいと評判。とくに鳥の唐揚げは、ほかでは味わえない独特の風味があり、大会議室で催されるパーティでもわざわざ買い込むほど大人気。



大阪らしい「紅しょうがの天ぷら」

サバのぬか漬「へしこ」もあります

こちらが絶品の名物「鳥の唐揚げ」

41
OSAKA

花のれん

福岡県福岡市上川端町11-1
グレイスマンションB1F
Tel.092-281-2813



肉汁あふれるイチオシ「神戸牛メンチカツ」

43
KYUSHU

日替りメニューの「合鴨サラダ」

円屋 室町店

京都府京都市中京区
室町と新町の間四条
上ル観音堂町454-2
Tel.075-212-8152



「おぼんざい」でさらにお酒がすすむ

六白黒豚や旬の野菜を備長炭で焼き上げる炭火焼きをはじめ、京都ならではの「おぼんざい」や手打ち蕎麦も。近江シャモ鍋などお鍋のコースも充実。社員が女子会でも使うという、「本当は教えたくない」名店。

42
KYOTO



「活タコの石焼き」は軽く炙って半生で

39
SAPPORO

味処 北国屋

北海道札幌市中央区北2条西3 Tel.011-222-2254

イチオシは名物「活タコの石焼き」。生で食べても美味しい活タコを石でジュッと焼いて塩胡椒でいただくのがツウな食べ方。北海道ならではのラム肉や季節の食材のお料理などなんでも美味しいと評判です。

菜彩感 鳥もん

宮城県仙台市青葉区中央2-5-10 Tel.022-265-0252

岩手産「菜彩鶏」が食べられる鶏料理のお店。串焼きやもつ鍋のほか、鶏のしゅうまいやささみの山かけ、コロッケなど珍しいメニューも。仙台営業部の社員(とくに単身者)は昼夜を問わずお世話になっているとか。



菜彩鶏の美味しさは「串焼き」で 鳥もんの人気料理「鶏の半生焼き」

40
SENDAI



家族をオフィスへ招待する、年に1度のファミリーデー。

「家族の仕事と職場、そしてKPPをもっと知ってほしい」。そんなおもしろいから、KPPでは毎年8月、社員の家族をオフィスに招待する「家族の会社見学会」を実施しています。子どもたちは紙の話と仕事の話を聞いたあと、この日のために用意された名刺と社員証を受け取り、早速家族が働いている各デスクへ。普段は見ることのできない職場の様子や、同僚と働くお父さん・お母さんの姿を参観したのち、電話の応対やコピー、名刺交換など、実際の仕事を疑似体験。2014年度は、東京本社のほか、大阪、名古屋、九州、京都、札幌で実施し、27家族82名が参加。家族の仕事の理解が深まることで、家庭内コミュニケーションの促進、社員のワークライフバランス推進にもつながっています。



(左上) 子どもたちへの招待状
(左下) 名刺・社員証
(右上) スタンプラリーカード
仕事をひとつ体験することにはんこを押してもらる



名古屋支店を“下”から支える喫茶店「憩い」のオーナー。

大永ビル1Fにある喫茶店「憩い」のオーナー、国枝あい子さんは、18年にわたって名古屋支店を見守り続けてきた人物。こだわりのコーヒーで心を癒すだけでなく、ときには厳しくも温かい言葉を投げかけてくれる、家族のような存在です。自らを「KPPのファン」と公言する“あいちゃん”との絆が、名古屋の社員に勇気を与え続けます。



定年退職者、転勤者の送別会や旅行など、たくさんの思い出を共有

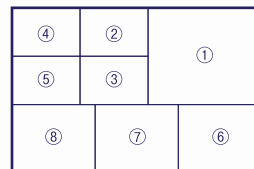
KPPの伝統、財産を次世代へ。全国のエリアごとに形成された“OB会”。



長年にわたってKPP発展のために尽力されてきたOBの方々。その諸先輩方が企業活動のなかで培った経験、見識、人脈、さらには企業文化を次世代に受け継ぎ、側面支援することを目的に、OB会が結成されています。OB会は、東京、大阪、名古屋、京都、九州とエリアごとに組織され、現役を交えた懇親会のほか、ゴルフ、囲碁、小旅行などを通して、会員相互のつながりを深めています。



(上) 2014年4月に開催されたKPP東京OB会の定時総会には81名が参加
(右) 同会の会報誌「ゆうゆう」



①:「倉庫復旧支援隊」
②③:支援物資は東京本社からチャーター便で仙台へ
④⑤:甚大な被害を受けた仙台支店と倉庫
⑥:緊急地震対策本部の様子
⑦⑧:東京新木場倉庫の復旧活動

心をひとつにして歩む東北復興への道。

地震と津波が襲った2011年3月11日。仙台支店の倉庫にあった在庫のほぼすべてが倒壊し、関係会社である鳴海屋紙商事の社屋が全壊状態になるなど、当社グループも甚大な被害を受けました。この非常事態に対し、KPPでは即時に赤松社長(当時)を本部長とした緊急地震対策本部を設置。全社員が心をひとつにして、東北・仙台の復旧に全力を尽くしました。KPPグループ全拠点から届けられた支援物資は、段ボール箱約100箱。余震によって崩れた在庫の積み直しのために、東京本社では約40名から成る倉庫復旧支援隊が結成され、連日作業に当たると、まさに全社員が「おもい」を重ね、未曾有の苦難に立ち向かいました。

鳴海屋紙商事は、仙台の地で130年続く老舗紙問屋として、仙台七夕に使われる笹飾りの約7割を制作しています。復興への願いと鎮魂の祈り。つひとつ手作業でつくられる七夕飾りには、これからも東北の支援を続ける、KPPグループ全社員の決意が込められています。



O-MO-I

おもい

企業活動の根底にある願いとポリシー

鳴海屋紙商事・七夕企画室の山村蘭子さん

全国から選りすぐった
個性派が集結



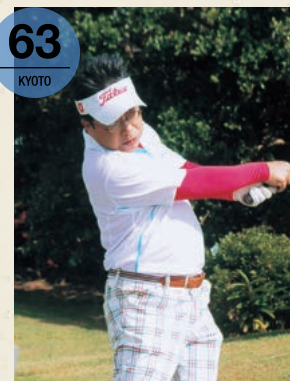
65
TOKYO
●ゴルフ歴:37年 ●ベストスコア:74
●特記:ホールインワン達成:1回、「ゴルフダイジェスト誌」掲載など

東京本社 新事業営業本部
環境ビジネス部 エコモ営業課
深井和三四郎さん



64
TOKYO
●ゴルフ歴:10年 ●ベストスコア:88
●特記:第一打はレディースティーではなく、つねにレギュラーティーから勝負!

東京本社 財務本部 財務部
財務課 課長
秋山由美子さん



63
KYOTO
●ゴルフ歴:30年 ●ベストスコア:75
●特記:第47回 関西実業人ゴルフ競技大会(団体戦) 優勝など

京都支店 支店長
坂東哲雄さん

ナイスショットを連発する KPPの名ゴルファーたち。

KPPには歴代OBを含めて、名ゴルファーがそろっています。2011年の関西実業人大会では、個人戦、団体戦のダブル優勝の快挙を達成。京都支店の坂東哲雄さんは、現在OBとなった深谷さんとのコンビで挑んだ団体戦で75のスコアを記録し、KPPの初優勝に貢献しました。西の坂東さんと並び、東を代表するのが深井和三四郎さん。ゴルフ専門誌に何度も取り上げられるなど、その腕前は折り紙付きです。KPPのゴルフ文化は、もちろん女性にも。秋山由美子さんを筆頭に、ゴルフをこよなく愛する女性ゴルファーが多数います。



高校ラグビーの花園開催50周年を記念し行われた特別試合での勇姿。かつての全国大会決勝の相手・天理高OBチームを前に、気迫のこもったプレーをみせる田辺社長に、応援に駆けつけたKPP社員からも歓声が沸き起こりました

代表取締役社長
田辺円社長

58
KPP

経営の原動力は、**ラグーマン・スピリット**。
KPPのリーダー・田辺社長は、かつて高校ラグビー界を沸かせたラグーマン。母校である北見北斗高校は、過去に何度も全国大会出場を成し遂げその名を轟かせる強豪校。そのラグビー部の一員として活躍していたのです。2013年1月には、高校ラグビーの花園開催50周年を記念して行われた特別試合にフル出場。現在も地元元シニアチームの一員として週に1度のトレーニングに励む田辺社長のバイタリティーは、未だ衰えを知らません。



名古屋支店 印刷・直需営業部
特需・化成品課
長谷川香織さん



67
NAGOYA

観客を魅了する情熱ダンサー。

名古屋の街を舞台に、約200チーム、23,000人が参加する踊りの祭典「ど真ん中祭り」。長谷川香織さんは昨年犬山市を拠点とするチームの一員として参加し、見事準大賞を受賞。その情熱を内に秘める“ダンサー”なのです。



名古屋支店 印刷・直需営業部
新聞・直需課
藤田雄一郎さん



五輪・銀と競い合ったフェンシング元日本代表。

藤田雄一郎さんは、高校、大学時代に華々しく活躍したフェンシング選手。団体では全国高等学校選抜大会3位、個人でも世界選手権の代表としてナショナルチームのメンバーに名を連ねるほどの実力者でした。北京、ロンドン五輪の銀メダリスト、太田雄貴さんは、関西リーグ戦でのぎを削ったライバル。その競技人生で培った粘り強さと集中力は、未だ健在です。

66
NAGOYA



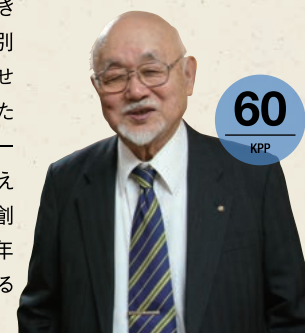
社友
加来浩二さん

画家としての顔を持つ かつての経営トップ。

加来浩二さんは、前身である大永紙通商の社長・会長を務めるなど、KPPの歴史に大きな足跡を残してきた方。その経営者としての顔とは別に、実は画家としての一面も併せ持っています。多くの日本画を遺した祖父、画壇で活躍された母と芸術一家で育った加来さんは、米寿を迎えられた現在も年に数枚のペースで創作活動を継続。2013年には20年間描き溜めた約50点の作品による個展も開かれました。



加来さんから寄贈され、東京本社に展示されている作品「九十九里の夜明」



60
KPP

同僚からの信頼も厚い、**大阪の頼れる万能選手**。
総務として、長く大阪支店を支える佐伯恵子さんは、いわばKPP大阪の顔。ともいえる存在。社内外の関係者を幅広く理解して良好な関係を築き、社員が働きやすいように環境を整えることで、これまで企業としての成長をアシストし続けてきました。社員から「困ったことがあつたら佐伯さんに」と頼られる彼女は、大阪支店のオールラウンダーとして、これからも仲間の笑顔を支え続けます。



59
OSAKA

大阪支店 管理部 総務課 課長
佐伯恵子さん



卸商営業を支える、 KPPのツインタワー。

学生バスケット界の中心選手として、一時代を築いた上田将史さんと竹原康広さん。現在はともに営業として客先を飛び回る一方、週末は社会人クラブチームの一員として競技を続けています。バスケットで培ったチームワークとメンタリティーはまさに一級品です。

上田さんは、高校では国体選抜(長野)のキャプテン、大学では日本代表候補として、観客を魅了

70
TOKYO



東京本社 卸商営業本部
卸商部 卸商第2課
上田将史さん



リーグの代表選手として、関東大学リーグ戦のポスターにも写る竹原さん。大学4年時には、学生選抜メンバーとしても活躍

東京本社 卸商営業本部
卸商部 卸商第3課
竹原康広さん

名古屋支店 印刷・直需営業部
特需・化成品課
木寅信太郎さん

68
NAGOYA



ソリューションの創造者。

全国でも特に紙以外の売上比率の高い名古屋支店。木寅信太郎さんは、柔軟な発想をもとに化成品や機器などの企画提案も行うソリューション営業推進派のひとりとして、日夜奔走を続けています。

東京本社 総務・人事部 人事部 人事課
安達文洋さん

62
TOKYO

「ブラインドセーリング」の競技発展にも貢献。

定年後も社員のメンタルケア等を担当する嘱託社員として、KPPを側面から支援し続ける安達文洋さん。その一方で、視覚障害者、晴眼者がひとつのヨットに同乗し、大海原を走る「ブラインドセーリング」の世界大会(2009年)に、日本代表として出場。現在は、NPO法人日本視覚障害者セーリング協会の理事として、競技の普及、発展のための活動に取り組んでいます。



KPPは、初の日本開催となった2013年世界選手権に、協賛企業として参加

美しき「書」を追求し続ける 大阪支店のアーティスト。

本誌1ページにある「国際深知」の書を担当した倉さんは、KPPを代表する書家のひとり。小学1年生からはじめた書道は、古典臨書を軸にさまざまな書体、書風を学び、書道展などに出品しながら技量を高めています。「書」は、奥深い芸術であると同時に、書家の人柄や心を映し出すもの。その格調ある凜然とした作品が、彼女の人間性を物語っています。

書道展に出展した、2尺×8尺にも及ぶ倉さんの大作

61
OSAKA

大阪支店 直需営業部 直需第1課
倉佐奈恵さん





名古屋うまいもんどころ 店長のひとりごと
愛知県名古屋市中区栄1-11-5 御園ビル1F
http://www.hitorigoto.jp/



75 変わった名古屋メシを堪能できる 社員御用達の居酒屋がある

75
NAGOYA

手羽先、味噌カツ、きしめん、どて煮。ご当地名古屋メシは数あれど「こんなものまであるのか」という珍しい居酒屋さんが、社員御用達の「店長のひとりごと」。あんかけスパゲティときしめんのコラボ・あんかけきしめんは序の口、朝食の定番・小倉トーストやチーズとあんこのマリアージュ・小倉ピザなどユニークなメニューも。また、店長はミニカーやアニメフィギュアコレクターとしても有名で、店内に所狭しと飾られているそのさまも圧巻。奇妙キレテツかと思いきや、味は太鼓判だそうなので、名古屋支店員と一緒に足を運んでみてはいかが？

紙を丸めてバズーカのように 担ぐ社員の光景をよく見る

出版部門の営業マンは、紙の見本を筒状に丸め、まるで「バズーカ」のように担いで持ち歩くのが日常。バズーカ仕様の人を街で見かけたら、それはきっと紙業界の人に違いありません。ちなみに、丸めて包装するテクニックはなかなか難しいもので、これができて一人前という説も。また、スーツの肩がテカテカになりがち、というウワサも。



78
TOKYO

東京本社 新聞・出版営業本部
出版用紙1部 出版用紙第2課
北川陸士さん



76 東京本社が ドラマのロケ地に使われた

現東京本社は、TVドラマのロケ地として登場しています。たとえばフジテレビ系のドラマ「まっすぐな男」(2010)。主人公が勤めるフロンティア建設のビルとして登場しました。放映当時は、営業マンが「はい、フロンティア建設です」とジョーク交じりに得意先の電話に出たこともあったとか。近隣では、同じくフジテレビの月9ドラマ「ロングバケーション」のロケ地として隅田川の堤防なども登場しています。

知人ぞ知る「KPP的」マメ知識

ざつがく

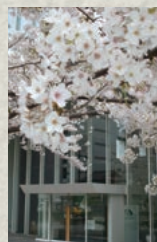
ZA-TSU-GA-KU

2

知って驚き、聞いてナツク。仕事にも役立つ(かも知れない)、KPPとしておきのマメ知識をご紹介します。

77 春の名物 本社前の桜並木

本社前の通りは桜並木。春になるといっせいに咲き誇るそのさまはとても美しく、社員の通勤のひとつきに、文字どおり花を添えてくれます。



旧大阪支店跡から出土した 縄文時代の貝殻

1987年の大永ビル建設に際し発掘された無数の貝殻。大阪市自然史博物館に鑑定を依頼したところ何と縄文時代のものと鑑定されました。



79
NAGOYA



名古屋支店 業務部 仕入第1課 吉村健一郎さん

遠くにいるのに すぐそばに存在を感じる、 吉村さんの声

スタッフ多数から寄せられたフシギな声のオハナシ。業務部・吉村さんの声は、まるで「すぐそばにいる」みたいに聞こえるのだそう。日々お客様さまや仕入先さまと交わす愛と熱のこもったやりとりは、驚くほど近くに感じるんだとか。ワンフロアの名古屋ならではのエピソード。

82 女性社員にも “やさしい”KPP

女性社員の活躍もめざましいKPP。心身ともに健康に働ける女性にもやさしい職場づくりが進み、育児休業制度などの活用が増えています。2013年度は14名が育児休業を取得しました。



育児中の近江恵子さん

81
SENADAI



平成26年4月28日付 福島民友新聞掲載

仙台には子どもが 世界記録を持っている 社員がいる

今年の4月、仙台営業部・草刈さんのご子息が福島・猪苗代で開かれた「ラリーピンポンリレー」に参加、みごと139人で白球をつなぐラリーに成功し、ギネス記録に認定されました。世界記録保持者。これって、かなり貴重ですよな。



新入社員はもちろん、合併によってともに働くことになった社員に対しても、「困っている雰囲気を感じたら、率先して声をかけるようにしている」(比田井さん)とのこと

社員の「困った」に笑顔で対応する、東京本社のキープレイヤー。 「比田井さんに聞けばわかるよ」。東京本社で頻繁に聞かれるこのセリフが物語るとおり、総務の比田井光子さんは、老若男女を問わず、誰からも頼られる存在です。その相談内容は、社内の設備・備品に関することから、発送方法、拾った落し物の届け先に至るまで、実に多種多様。誰に聞けば良いのかわからない難題にも、比田井さんは笑顔で的確な答えを返してくれます。「私が何でも知っているわけではなくて、○○さんに聞けばわかるかも」と解決の糸口やヒントを紹介しているだけなんです」と、比田井さん。東京本社の社員にとって不可欠な「唯一無二」の存在です。

東京本社 総務・人事部 総務部 総務課
比田井光子さん

71
TOKYO



大阪支店 直営営業部 産業用紙課
城生栄二さん

73
OSAKA

新規開拓を続ける、グルメ大阪代表

「接待のお店に迷ったらこの人に」と、同僚の営業が絶対の信頼を置く城生栄二さんは、食にうるさい大阪支店を代表する食通。26年の食べ歩きで開拓したデータから、その日にもてなすお客さまの趣向、タイプに合った、ベストマッチの名店を紹介してくれます。

■城生さんおすすめの「大阪グルメ」BEST3

コシヨロズ(ビストロ) (谷町四丁目駅)	野菜のメインは、ランチとしては最高クラス!
笑日志(蕎麦) (北浜駅)	おすすめの「粗挽き粒せいろ」は売り切れ必至の絶品!
コロニアエイト(カレー) (北浜駅)	ルーが隠れるほどの大量の香辛料が決め手!

東京本社 新事業営業本部
環境ビジネス部 エコ営業課 課長
山田俊介さん

72
TOKYO

全国を飛び回る、グルメ東京代表

タウンエコモの営業担当として、週の半分は全国を飛び回っているという山田俊介さん。出張先では、地域文化の特性を理解するために、その土地ならではのメニューを食べることになっているとか。山田さんの足で集めたグルメ情報はハズレがないと評判です。

■山田さんおすすめの「全国絶品グルメ」BEST3

タージマハル(インドカレー) (富山県富山市)	本場インドのスパイスを使った激辛カレーはクセになる美味しさ!
宝来軒本店(ラーメン) (大分県中津市)	あっさりした豚骨スープと極細ストレート麺のコラボが絶妙!
資さんうどん(うどん) (福岡県北九州市)	自家製麺と旨みたっぷりの出汁の効いた絶品メニューがズラリ!

名古屋支店
kppカレー部

74
NAGOYA

KPP名古屋のカレー愛好者たちの挑戦。

KPP随一の「ホットな部」として、ゆるい活動を続けているのが、名古屋支店の「KPPカレー部」(非公認)です。「究極のカレーづくり」を目標に、評判のカレー店での試食、カレー合宿、カレークリスマスパーティーなど、香辛料ならぬユーモアたっぷりの活動を続けています。もちろんその真意は、カレーをこよなく愛する社員が集い、絶品のカレーを味わいながら親睦を深めること。このカレー部も、名古屋支店の強い連帯感を表しています。

■KPPカレー部 年間スケジュール

回数	開催月	内容
第1回	初回	活動打ち合わせ
第2回	2月	カレーを学ぶ1
第3回	4月	カレーを学ぶ2
第4回	6月	カレー合宿打ち合わせ
第5回	8月	カレー合宿本番
第6回	10月	カレー商品化について
第7回	12月	カレークリスマスパーティー



■名古屋支店「KPPカレー部」メンバー ※順不同

中井啓悦さん	高田和紀さん	小川晶子さん	中根 誉さん
伊集院琢磨さん	齋藤康博さん	渡邊友枝さん	竹内利裕さん
機島要次さん	二村洋平さん	赤尾久美子さん	原 純一さん

みらい

創立90周年に寄せて

90

KPP

国際紙パルプ商事は1924年(大正13年)の創立から、本年で90周年を迎えることとなりました。これもひとえにお取引先のみなさまをはじめ、OBの諸先輩方と従業員、そのほか関係先さまの絶大なご支援・ご協力の賜物と心より感謝しております。

当社は主戦場である紙パルプ市場が成熟するなかで、業界のリーディングカンパニーとして流通の再構成という大きな課題に取り組んでまいりました。また、合併効果を最大化することで事業領域の拡大と海外市場の開拓を加速させ、新たなビジネスモデルの構築をめざしております。

当社の長期経営計画である「GIFT+1 2024」は既に発表しておりますが、これは10年後における当社の立ち位置を定めた指標であり、その第1フェーズが本年度よりスタートしております。創立90周年という節目の年を「第2の創業期」と位置付け、これまで培ってきた紙の総合商社機能をさらに進化させてまいります。

創立100周年に向け社会と共生し持続的成長を目指すKPPグループにご期待ください。

代表取締役社長

田辺 岡



84

KPP

「仙台七夕竹紙プロジェクト」

関係会社である鳴海屋紙商事と仙台営業部が連携し、「仙台七夕まつり」で使用された青竹を竹紙の原材料の一部として再生する「仙台七夕竹紙プロジェクト」を推進。地球にやさしい竹紙を使った製品によって、宮城・仙台の地域活性化につなげています。

カゴ車ecomо

83

KPP

「ecomо」シリーズ

「ecomо」は、KPPが管理・運営を行うリサイクルサービスの総称。家庭から出る古紙や不要となった機密文書の回収をシステム化することで、消費者、事業者、環境のそれぞれにメリットをもたらす「エコモデル」です。ecomоは、全国の小売店、オフィスなどで利用されています。詳細は当社HPをご参照ください。 ■国際紙パルプ商事 <http://www.kppc.co.jp>

タウンecomо



紳士なノート

85

KPP



「花想」

世界初の紙シールタイプの切り花長持ち剤「花想」。シールを台紙から剥がして花瓶の水の中に入れるだけで、シールに含まれた長持ち成分が水を清潔に保ってくれるので、切り花がいきいきと長持ちします。KPP開発のオリジナル商品としてロングヒットを記録中。紙シールのほか、液体ボトルタイプも。



87

KPP



もの

KPPおすすめの
商品やサービス

「KPPカフェプロジェクト」

2014年からスタートした新事業「KPPカフェプロジェクト」。珈琲豆の充填から、パッケージの提案・包装材の販売、流通事業など、多方面への事業展開をめざしています。



86

KPP

「PAPER MALL (ペーパーモール)」

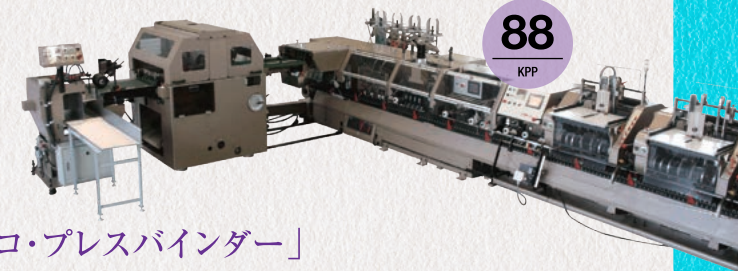
一般紙、特殊紙などの紙や紙製品など、約1,000種類の商品を取り揃える、KPP直営のウェブショップ。紙は1枚から注文できるうえ、東京23区(足立区をのぞく)であれば送料無料即日配送。個人向けのほか、法人向けのサイトも。

■PAPER MALL <http://www.kpps.jp/papermall/>



89

KPP



88

KPP

「エコ・プレスバインダー」

針金や糊などの副資材は一切使用せず、紙をプレスするだけで用紙を綴じることのできる、環境配慮型の製本技術が「エコ・プレスバインダー」。30枚程度(紙質による)の紙綴じが可能。KPPではこの製本システムの販売を推進しています。TSUNAGU本誌もこの製本を採用しているんですよ。



SINCE 1924



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコ・プレス
バインダー

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>